

国際おきなわ

KOKUSAI OKINAWA

No.67

第40回 外国人による日本語弁論大会



全体集合写真

第40回 外国人による日本語弁論大会

「第40回外国人による日本語弁論大会」が、去る2月11日にパレット市民劇場で行われました。

今大会は3年振りの有観客で実施され、弁士も例年に勝るとも劣らないパフォーマンスを発揮しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から来場者事前予約制やQRコードによる受付時の改札の導入などを行うことで、安心・安全に大会を実施することが出来ました。

大会にはアジア、東南アジア、ヨーロッパ出身など11の国と地域から12名の外国人が登壇し、最優秀賞となる沖縄県知事賞にはシンガポール出身のホーン・ザリファ・アヌア・リアさんが選ばれました。

現在、沖縄県立向陽高等学校にALTとして在籍するホーンさんは、「歴史も、家族も、ちゃんぶるも、全部campurでした」を演題に、異文化を尊重し、受け入れながら共生していく重要性について語りました。演題の“campur”はマレー語で“チャンプル”と発音され、

“混ぜる”という意味です。4年半前に沖縄に移住したマレー系シンガポール人のホーンさんは、豆腐チャンプルーを始めとして沖縄でマレー語やマレー文化と共通点を多く見つけました。沖縄と母国は遠く離れているのに、言語や文化が混ざっていることにホーンさんは面白さを感じます。またご自身の結婚を通じて、異文化で育った相手、その家族の文化を尊重して受け入れながら、自分たちらしい多文化家庭を作っていく重要性を改めて認識したと弁論しました。



観客席の様子



公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

HP:<https://kokusai.oihf.or.jp>

TEL:098-942-9215 FAX:098-942-9220

FB:<https://www.facebook.com/oihf60>



OIHF HP QR



沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞（優秀賞）を受賞したのは、中国出身の何 越洋（カ エツヨウ）さんです。日本文化が好きな何さんが思い出深い日本の音楽は、沖縄出身のバンド・MONGOL800の「小さな恋の歌」です。中国語教師として勤務する彼女は、今後は沖縄で学生との関わりを通じて、両国間の青少年交流のために全力を尽くしていきたいと抱負を語りました。今後も沖縄で、何さんなりの「小さな恋の歌」を見つけるそうです。

沖縄テレビ賞（優良賞）を受賞したのは、琉球大学に在籍する留学生のユン・ソンビンさんです。昔話・ことわざをテーマに、それらは言葉以外にもその国の文化や物の見方、考え方、価値観などを学べる良いツールになるということでした。分かりやすい具体例を出しながら母国・韓国と日本の比較、価値観の違いを弁論したことが評価され受賞に繋がりました。

審査員特別賞を受賞したペルー出身の小波津 悟チョビさん。沖縄にルーツをもつ日系二世のペルー人である小波津さんは、見た目は日本人・育った国はペルーということもあり「自分はどこの国の人なのか？」とアイデンティティについて悩むことが多かったそうです。日本に移住して32年、ペルー・日本・沖縄での暮らしを通じて小波津さんのアイデンティティは、特定のものには染まらず、全ての文化を客観的且つ多角的に理解できるようになりました。またご自身の経験を通じて国や言葉に境界線はなく、各々が世界は1つであることを理解し、平和へ繋げていくべきだと語りました。

当日はお陰様で多くの方にご来場いただき、盛況のまま無事に終えることができました。

ご協力頂いた関係者の皆様、心より感謝申し上げます。

外国人による日本語弁論大会 受賞者と参加者



沖縄県知事賞



演題

歴史も、家族も、ちゃんぶるも、全部campurでした

演者

Horn Zarifah Anuar Ria さん
(ホーン ザリファ アヌア リア)



沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞



演題

沖縄での「小さな恋の歌」

演者

何 越洋 さん
(カ エツヨウ)



審査員特別賞



演題

異なる文化から見た
アイデンティティのあり方

演者

小波津 悟 Chobi さん
(コハツ サトル チョビ)



沖縄テレビ賞



演題

むかし、むかし
あるところに…

演者

윤 성빈 さん
(ユン ソンビン)



宋 岳潔 さん
(ソウ ガクケツ)



Guerrera-Sapone Max さん
(グレラ サボン マックス)



Saputra Maradiansah さん
(サブテウラ マルディアンサ)



廖 品嘉 さん
(リョウ ヒンカ)



เก็ดโภากา ธนากร さん
(ガードボーカー タナゴン)



Raya Santosh さん
(ラヤ サントス)



Riciard Ana さん
(リチャード アナ)



Röhrkasten Theodor Everley さん
(ルールカステン テオドル エヴァリー)



琉球大学からの参加者たち



大会前にオリエンテーションに参加する弁士たち



災害時外国人支援サポーター養成講座

@宮古島を開催しました!

参加者の「防災・減災」に対する意識を高め、島嶼県沖縄の地域防災力の向上を図るとともに、災害時に宮古島で外国人被災者に寄り添うことができる人材を育成する「災害時外国人支援サポーター養成講座」を2年ぶりに対面により宮古島市で行いました。

講座は2日間にわたり実施され、「災害時に必要な想像力やデマ対応」、「被災者に対する傾聴とサポーターとしてのストレスマネジメント」や「やさしい日本語演習」など多岐にわたる内容を学びました。また講座のまとめとして「避難所運営訓練 (HUG)」が実施され、避難者にみためカードを避難所にどのように配置するべきか等をグループで判断し対応しました。講座の参加者からは次のような感想が寄せられました。

講座を通して気づきが沢山ありました、人が人としての営みができるという事はいかに素晴らしい事かと改めて思いました。2日に渡っての講座、少々駆け足で時間ももっとあればいいなと感じました。そして、もっと沢山の方に講座を受けてほしいとも思いました。

今回の講座を通し学んだことをストック情報として持っていることで、講座を受ける前までの漠然とした不安をもって、支援するのではなく、この場合は・・・という想定が少しでもできるようになったと思います。大変勉強になりました。

やさしい日本語がすごく難しかったです。情報の取捨選択もそうですが、より分かりやすく的確に伝えたい内容に言い換えるというのが非常に難しかったです。

今回は13名の方にご参加いただきました。定期的を実施し、離島においても災害時対応することができる人材を積極的に育成し、地域防災力を高めて行きたいと思っております。



HUG机上
訓練の様子



講座の様子





災害危機管理ウェビナー

参加者の「防災・減災」の意識を高め、また地域が抱える災害危機管理上の課題を掘り下げ島嶼県沖縄の地域防災力の向上に資する対応策について考えることを目的に、去る1月14日(土)に「災害危機管理ウェビナー」を開催し、名古屋大学名誉教授 福和 伸夫 氏と六甲アイランド循環器内科部長 水谷 和郎 氏のお二方にご登壇いただきました。

参加者からは、「災害対策のみならず、災害と共に歩んだ歴史、ライフラインや少子高齢社会、開発と復興など、災害のみならずそれを取り巻く複合的問題に対する非常に貴重な情報や知見をご紹介頂き大変勉強になった」、「住民として、看護師として、災害支援ナースとして、特に防災という点においては、できていないことにたくさん気がつき、日頃からやっていたと思いました」や「(水谷先生の講演では) 貴重なビデオを見せていただき、とても感謝しています。その当時の思いや、今だから感じられる事なども共有していただき、心に深く刻まれた。災害発生時の病院の実情を知ることが出来て改めて、自分や家族を守るために今

何ができるのかを、考え動く良い機会になった。」等の感想が寄せられました。

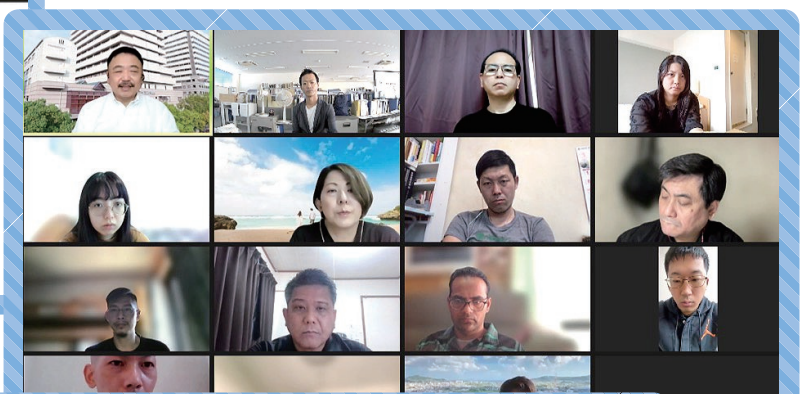
このウェビナーから半月あまり過ぎた頃の2月6日、トルコとシリアの国境付近で大地震が発生しました。両国合わせて5万人を超える死者が報告されており、被害が拡大しています。このように、災害とは正に「忘れたころ」にやってくるということを私たちは肝に銘じなければいけません。南海トラフ地震については、マグニチュード8~9クラスの地震の30年以内の発生確率が70~80%(2020年1月24日時点)とされています。

予見できない未来

- 新型コロナと半導体の需給
- ウクライナ侵攻と石油・LNG・食料
- 明治用水の漏水と発電所・工場
- 電力のひっ迫
- KDDIの通信障害
- 安倍元総理襲撃事件
- 急激な円安
- 衰弱する国力、窮地に立つ民主主義

2022年を振り返る

- 1月15日 フンガ・トンガ噴火で潮位変化、津波警報・注意報発令
- 1月21日 13都県でまん延防止等重点措置(1月9日沖縄より)
- 1月22日 日向灘沖の地震M6.6 臨時情報の可能性
- 2月24日 ロシアがウクライナへ侵攻を開始
- 3月16日 福島県沖の地震M7.4、震度6強、新幹線脱線、大規模停電
- 3月21日 電力需給ひっ迫警報発令
- 3月27日 幸田町駅前の火災
- 4月19日 北九州市小倉北区の「巨過市場」の火災
- 4月23日 知床遊覧船沈没事故、遊覧船カズワン、26人の犠牲者
- 5月17日 明治用水頭首工で大規模な漏水
- 6月19日 能登でM5.4の地震、能登半島群発地震(2020年12月から)
- 6月26日 東京エリアへの電力需給ひっ迫注意報発令(30日まで)





The Fourth English and Cross-culture Webinar

去る2月25日(土)に今年度最後となるEnglish and Cross-culture Webinarを開催し、離島からの参加者を含め高校生から大学生15名が参加しました。2時間強英語によるディスカッションとなるため、はじめは緊張した様子をのぞかせる参加者でしたが、自身が話したいトピックについてパワーポイントを準備したりスマホの画面を共有するなど、身振り手振りのサバイバルイングリッシュでその場を乗り越えました。

参加者からは達成できたことや今後の課題など様々なフィードバックが寄せられました。

■ 実際に英語だけでディスカッションをしてみて、全然英語ができないなと実感しました。同じグループの方たちやインストラクターの方に助けてもらいながらやっと伝わったなという感じで一人では頭が真っ白でした。単語や文法は正直意味がないということもディスカッションの中で感じました。自分の意見が言えたとしても相手から質問が返ってきたときにその質問の意味も分かるようにしたいです。

■ これまで海外の方々と話すことに、少し苦手意識を持っていたけど、この機会を機に、英語を自分の言葉で話すことは、少しも怖がることはないんだなと思いました。また、英語の文法などを気にして最初はどのように話せばいいかわからなかったけど、イ

ンストラクターの方と話していくうちに、だんだん文法のことは気にならずに、気軽に自分の知っている範囲の単語などを出していきながら会話することができました。

■ 私は英語がとても苦手だけど、今回のイベントを通して、ジェスチャーや積極的にコミュニケーションをとることが重要だなと感じました。今までは、文法や単語は絶対!!だと思っていたのですが、海外の音楽や映画などの自分の趣味に合わせて学ぶほうが頭に入ってくるとわかりました。

■ 日頃から自分の意見を持つようにして、日本語でもいいから聞く人が納得してくれるような理由も一緒に考える習慣をつけたいなと思いました。また、もっと英語に触れる機会を増やしたほうがいいなと感じたので、今後もこのようなイベントがあれば積極的に参加したり、洋画や洋楽を字幕付きで見たり聞いたりする方法も参考にして生活にもっと英語を取り入れていきたいです。

次回は、**6月10日(土)**の開催を予定しています。外国人研究者と気軽にコミュニケーションを図れるチャンスです。多くの皆様のご参加をお待ちしています！





地域日本語教育推進ウェビナー

去る1月13日に、OIHF主催の地域日本語教育推進ウェビナーを開催しました。このウェビナーでは講師として、(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎 氏を招き、地域日本語教育の現状や課題等を通して、在留外国人に対する日本語教育の重要性について考えました。

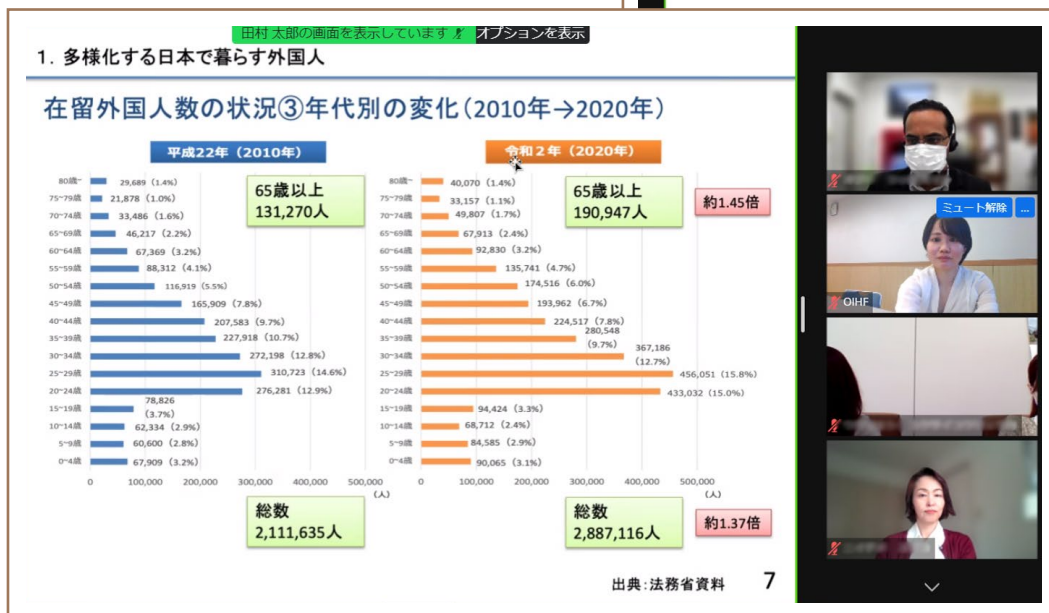
当日はOIHFのサポーターだけではなく、地域の国際交流協会の職員も参加し「なぜ、日本語教室がない地域には未来がないのか?~「多文化共生」と「持続可能な未来」の深い関係~」を演題にウェビナーは進行しました。

このウェビナーで参加者が学んだことは、地域の日本語教室は「言語を学ぶだけの場ではなく、外国人にとっては数少ない日本社会との接点の場」であるということです。具体的には地域のルールや慣習、生活について情報を収集する場であるそうです。そういった場所が1つでも多くあることは、外国人にとって生活しやすい地域となります。無ければ、生活しにくい場所と考えられ定住する、また新しく訪れる外国人はいません。いずれその地域の過疎化が進み、なかなか人が定着しにくい場所(=住みにくい場所)になるということでした。「日本語が学べない場所には新しく人はこない、人がこないところに未来はない」という、演題どおりの未来になることが予想されます。外国人が住みやすい地域づくりにボランティアだけでは活動の限界があり、行政機関の力が必要という話もありました。今後沖縄が発展していくためにも、私たちは外国人が定住しやすい環境づくりに努めていく必要があります。まずは各々が出来る範囲で、外国人の日本語学習サ

ポートなどから始めてみてもいいかもしれません。

参加者からは「田村先生の『日本語は日本で暮らすための手段である。日本語教育は日本人のようになって欲しいから行うのではない。お互いの違いを認めて新しい社会を作っていくとする姿勢が大事』という言葉がとても印象に残りました」「日本語を勉強するなら沖縄が良い!と思われるようにサポートをするように努めていきたいと思います」「多様化する日本語学習ニーズに答えるにはボランティアだけの力では限界があると思うので、自由に寛容な持続可能な町づくりをキーワードに、行政に働きかけていきたい」と多くの反響がございました。

ご協力頂いた関係者の皆様、心より感謝申し上げます。今後もOIHFはこのようなイベント・セミナーを開催して参りますので、ご興味がある方はぜひご参加ください。





「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム(JP-MIRAI)」HPでOIHFの事例が紹介されました。

外国人の生活・労働環境向上のためのプラットフォーム「多文化共生推進アライアンス」に関する OIHF の取り組みが、「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム (JP-MIRAI)」の HP において、行動原則実践の推進事例として紹介されました。取り組みの経緯や今後の展望など、多くの皆様にご理解いただき、引き続き多文化共生社会の推進に寄与してまいります。記事の内容は、QR コードからご覧いただくことができます。



JP-MIRAI HP QR



「島嶼県沖縄における地域日本語教育の推進に関する基本的な方針」を策定しました

沖縄県に在住する外国人の数は、令和3年末には18,535人となり、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け減少に転じたものの、外国人材の受入れが本県においても進む中、今後も増加すると考えられます。

国は、関係閣僚会議において「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」（平成30年12月25日決定、直近令和4年6月14日改訂）を取りまとめ、在留外国人を社会の一員として受け入れ、外国人との共生社会を実現するために必要な施策を進めています。平成31年4月から新たな外国人材の受入れ制度（「特定技能1号・2号」の在留資格）が開始され、在留外国人の増加が見込まれる中で、外国人が日本で生活する上で必要となる日本語能力を身につけ、より円滑に意思疎通ができる環境を整備するため、日本語教育の更なる充実が求められています。

令和元年6月28日には、「日本語教育の推進に関する法律」（以下「日本語教育推進法」という。）が公布、施行され、同法第11条において、地方公共団体は、日本語教育に関する施策を推進するための基本的な方針を定めるよう努めるものとされました。

この「島嶼県沖縄における地域日本語教育の推進に関する基本的な方針（以下、「基本方針」という。）」は、

同法の規定に則り、本県における地域日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針を定めました。

今後は、本基本方針に基づき、関係団体と連携を図りながら外国人に対する日本語教育の推進を図って参ります（本基本方針は、OIHFのHPからダウンロードすることができます）。



島嶼県沖縄における
地域日本語教育の推進に関する
基本的な方針



Upcoming event

医療通訳者養成講座 受講者募集

目的
県内の在住外国人が安心して地元の医療機関を受診できるよう、医療通訳者として活動できる人材を育成します。

定員
各言語20名程度
募集締切後、申請書の内容に基づき受講者を選別します。

募集対象
次の要件を満たす方
(1) 全講座（5回）の受講と認定テストを受験できる方
(2) 受講希望言語でビジネスレベルのコミュニケーション力を有する方

養成対象言語
英語・中国語 **受講無料**

実施場所 沖縄産業支援センター

お問い合わせ：(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課
TEL: 098-942-9215
HP: <https://kokusai.oihf.or.jp> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>

災害時外国人支援サポーター養成講座 参加者募集

目的
「防災・減災」に関する知識を深め、島嶼県沖縄の地域防災力の向上を目指し、被災した外国人をサポートしながら自治体や地域住民との橋渡しを担える人材を育成します。

実施場所 **受講無料**
■第1・3・4・5回：沖縄産業支援センター
■第2回：沖縄県市町村自治会館

参加要件
島嶼県沖縄の地域防災力の向上や外国人支援に興味を持つ方

募集人数 **40名程度**

実施期間等
2023年3月5日(日)～4月16日(日)

お問い合わせ：(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課
TEL: 098-942-9215 HP: <https://kokusai.oihf.or.jp> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>

ENGLISH AND CROSS-CULTURE WEBINAR 参加者募集

目的
高校生から大学院生を対象に、自分の考えを英語や日本語で論理的に発信できる基礎力を養うためのアウトプット型セミナーを実施します。

開催日時 **参加無料**
6月10日(土) 8:45～12:00

実施内容
外国人研究者等と参加者が興味を持つ様々なトピックに関して英語でディスカッション

お問い合わせ：(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課
TEL: 098-942-9215 HP: <https://kokusai.oihf.or.jp> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>

OIHFで
にほんご
日本語を
べんきょうしませんか？

沖繩に住んでいる外国人で
日本語を勉強したい方にお知らせください！

無料です。
全クラス定員があります。
申し込みはお早め！

1. ビジネス日本語I・II
実施期間 I: 2023年4月11日(火)～2023年3月12日(火)
II: 2023年4月13日(木)～2024年3月14日(木)
開催内容 I: ビジネスコミュニケーション(会話中心)
II: ビジネス文書の作成(パソコンによる資料作成)
講座時間 10:00～12:00(2H)
実施場所 ZOOM

2. 日本語基礎対面クラス
実施期間: 4月14日～3月8日(金)
開講曜日: 別途指定する金曜日(月3回程度)
講座時間: 19:00～21:00 (2H)
実施場所: OIHF内3Fホール
定員: 30名程度(先着順)

3. 個別オンラインクラス
実施機関: 4月14日(金)～3月8日(金)
開催日時: 平日7:00～19:00の間で希望する日時(1回40分/上限月4回)
実施場所: ZOOM
内容: 参加者の希望する内容を勉強できます

OIHF法人賛助会員様

	沖縄ツーリスト	沖縄県商工会 連合会	パシフィックホテル 沖縄		